



書道



こぐまじゅんこ

かずこちゃんは、書道教室に通よんじゃあ。小学校1年生から習い始めて、もう3年経った。日曜日の午前中、家からありいて10分のところに書道教室はある。教室に入ると、墨の匂いがして、落ち着いた空気が、かずこちゃんを包む。

半紙を広げて、筆を走らせていく。

「ああ、うったてが、うもうできんなあ。」

かずこちゃんは、また半紙をとりだして書いていく。

「はらいは、まあまあええようにできたで。」

1枚書きあげると、先生のところにもっていく。朱の墨で、先生は直していく。

「もうちいと、太い字を書こうやあ。この、はらいは上手にできとるよ。」

先生の字は、本当に上手じゃなあ、と思う。

先生みてえな字が書けるようになりてえなあ……。

かずこちゃんが、そんなことを思ようるとき、先生が、

「へえでも、かずこちゃんの字は、素直なええ字じゃ。字は性格がでるけんなあ。」
ゆうて、笑ようる。

私って、素直なええ子なんじゃ。かずこちゃんは、性格をほめられて、ちょっぴりくすぐったかった。